

ウォークアブル推進計画 事後評価シート

町田駅周辺地区

令和8年3月

都市再生推進法人 株式会社 町田まちづくり公社

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	東京都	市町村名	町田市	地区名	町田駅周辺地区			面積	24.6ha				
交付期間	令和3年度～令和4年度	事後評価実施時期	令和7年度	交付対象事業費	32.2百万円	国費率	0.5						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 滞在環境整備事業(滞留空間の創出、交流拠点の社会実験)										
		提案事業											
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし	事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
		提案事業	なし										
	新たに追加した事業	基幹事業	なし										
		提案事業	なし										
交付期間の変更	当初	令和3年度～令和5年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	なし									
変更	令和3年度～令和4年度												
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
	指標1	アクティビティの数	種類	4種類	令和2年度	8種類	令和6年度	-	8種類	○	あり	原町田大通りの滞留空間”はっとterrace”（以下”はっとterrace”）という。）や町田駅前交流拠点ははっとまちだ（以下”はっとまちだ”という。）の完成により、「目標1:多様なアクティビティが生まれる空間の創出」「目標2:安心してゆっくり過ごせる空間の創出」を推進する環境が整い、調査において、8種類のアクティビティが確認できた。	
										なし			
指標2	滞在時間2時間以上の人の割合	%	52.4%	平成31年度	55.2%	令和6年度	-	44.7%	△	あり	令和元年度後半から数年にわたる新型コロナウイルス感染症による外出自粛要請等、社会環境の変化もあり、指標未達成となった。		
										なし	令和3年度以降、指標の数値に上昇傾向がみられることは、社会環境の変化によるものが大きい、一定程度、事業による効果があると捉えている。 ● 今後も、憩いの空間として快適な滞在環境維持することで利用を促進するとともに、”はっとterrace”や”はっとまちだ(spot)”を活用したイベントの等、賑わい創出事業の実施により滞在時間の延長を図る。		
指標3	町田駅周辺の中心街を訪れる頻度	%	41.7%	平成31年度	48.4%	令和6年度	-	41.9%	△	あり	令和元年度後半から数年にわたる新型コロナウイルス感染症による外出自粛要請等、社会環境の変化もあり、指標未達成となった。		
										なし	令和3年度以降、指標の数値に上昇傾向がみられることは、社会環境の変化によるものが大きい、一定程度、事業による効果があると捉えている。 ● 今後も”はっとまちだ”や2号デッキでのデジタルサイネージ等を活用し、周辺資源や商店街等のイベント情報を発信するとともに”はっとterrace”や”はっとまちだ(spot)”を活用したイベントの等、賑わい創出事業の実施により来街を促す。		

	指標		従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	単位		基準年度		目標年度		モニタリング	評価値				
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1	来街者アンケートによる”はっとまちだ”、”はっとterrace”が居心地がよいと思う割合	%	-	-						当地区において不足していた憩いの空間の整備が完了し、課題解決が図れた。利用者アンケートにおいても、比較的高い満足度が得られており、事業による効果があると捉えている。	
	その他の数値指標2	来街者アンケート等による滞在時間2時間以上の人の割合	%	-	-			50.0%	54.7%		令和7年度に実施した来街者アンケートでは、滞在時間2時間以上の人の割合は、令和6年度比で4.7%上昇している。引き続き、憩いの空間として快適な滞在環境維持することで、利用を促進し、滞在時間の延長を図る。	
	その他の数値指標3	来街者アンケート等による中心市街地を訪れる頻度が2週に1回以上の割合	%	-	-			-	59.1%		令和7年度に実施した来街者アンケートでは、町田駅周辺の中心街を訪れる頻度が2週に1回以上の人の割合は、59.1%であり、原町田中央通りでの”まちスト”は、中心市街地を訪れるきっかけの一助となっていると推察できる。引き続き、”はっとまちだ”やJR町田駅周辺2号デッキ(以下「2号デッキ」という。)でのデジタルサイネージ等を活用し、周辺資源や商店街等のイベント情報を発信し、来街を促す。	

4) 定性的な効果発現状況

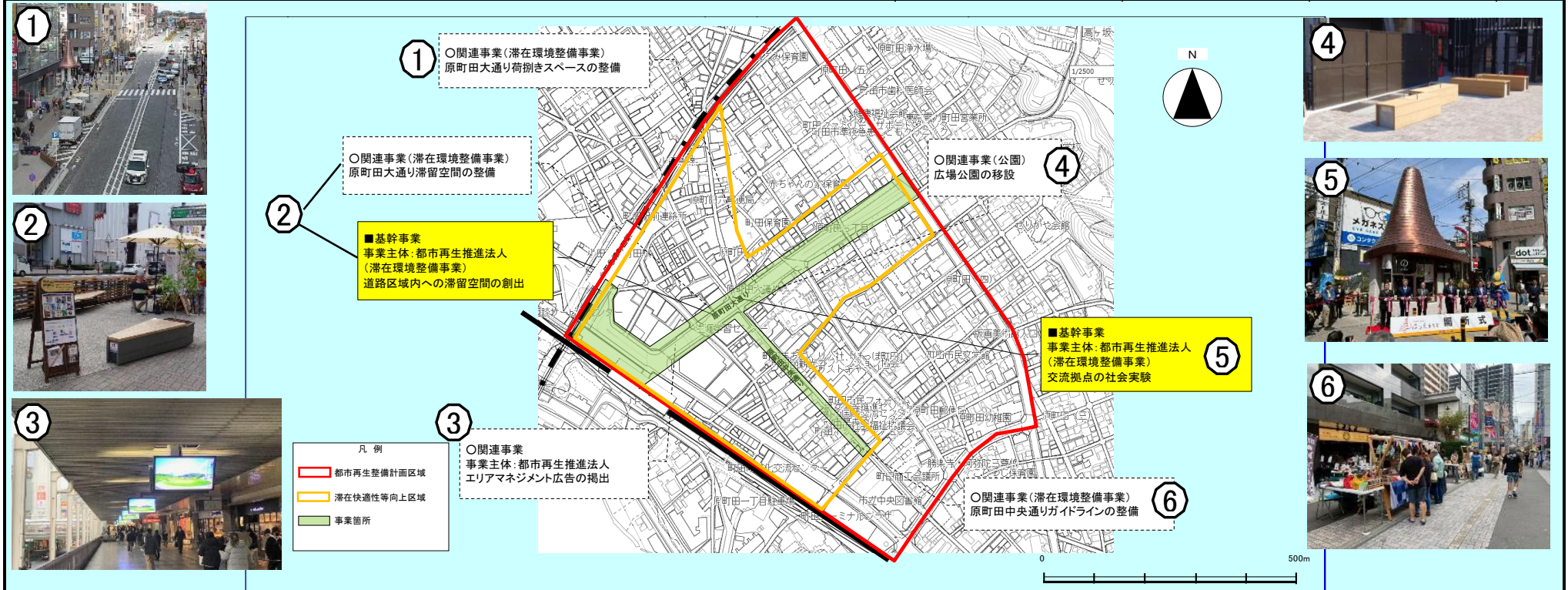
まちづくり計画の各プロジェクトに取り組みながら、駅周辺の機能更新を見据えたまちづくりを進める。原町田大通りや中央通りの取組をきっかけに、商店会やまちなかの方々、まちの将来に目を向け、各々で連携するなど、まちなかの新たな交流の創出、再開発に向けた機運醸成につながる。そのため、町田商工会議所、町田市中央地区商業振興対策協議会(以下「中対協」という。)、都市再生推進法人(株)町田まちづくり公社や、まちなかの住民・事業者等と中心市街地の将来の姿を描き、共有する意見交換会等を実施する。

5) 実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等	
	モニタリング	令和6年6月、11月に来街者アンケートを実施	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	今後適宜来街者アンケート等の実施により、中心市街地での滞在時間や来訪頻度を確保する。	
	官民連携による取組	・2021原町田大通り滞留空間創出社会実験の実施 ・原町田大通り滞留空間等整備 事業説明会、工事説明会の実施	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	今後も年1回程度、町田商工会議所や中対協、地元商店会・事業者とまちづくりに関する意見交換会を実施する。	
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●		
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			
	持続的なまちづくり体制の構築	原町田中央通り沿道空間活用の社会実験の実施	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	沿道店舗の参画や連携を深め、社会実験終了後の持続的な活用に向け、体制を整える。	
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			

様式2-2 地区の概要

町田駅周辺地区(東京都町田市) ウォーカブル推進計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標	単位	従前値	目標値	従前値	目標値	従前値	目標値
大目標: 賑わいや交流に溢れるまちの実現	アクティビティの数	単位:種類	4種類	(R2年度)	8種類	(R6年度)	8種類	R7年度
目標1: 多様なアクティビティが生まれる空間の創出	滞在時間2時間以上の人割合	単位:%	52.4%	(H31年度)	55.2%	(R6年度)	44.7%	R7年度
目標2: 安心してゆっくり過ごせる空間の創出	町田駅周辺の中心街を訪れる頻度	単位:%	41.7%	(H31年度)	48.4%	(R6年度)	41.9%	R7年度
目標3: また訪れたい魅力ある空間の創出								



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・「はっとterrace」や「はっとまちだ」の完成により、「目標1:多様なアクティビティが生まれる空間の創出」「目標2:安心してゆっくり過ごせる空間の創出」を推進する環境が整った。今後は、整備した環境を活用し、賑わいと交流に溢れるまちの実現を目指していく必要がある。 ・原町田中央通りガイドラインを整備し、沿道空間を活用したイベント「まちスト」を定期的な開催することによって、「目標3:また訪れたい魅力ある空間の創出」を図れている。今後は、無電柱化事業の完了を見据え、沿道空間の一体整備や利活用のルールの検討を進める必要がある。 ・町田駅前の環境整備や周辺大規模商業ビルは、建設から約50年が経過し、大規模な機能更新の時期を迎えており、民間事業者による開発の機運が高まっている。駅周辺の機能更新を見据えたまちづくりを進めるため、町田商工会議所、町田市中央地区商業振興対策協議会、都市再生推進法人(株)町田まちづくり公社や、まちなかの住民・事業者等と中心市街地の将来の姿を描き、共有していく必要がある。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・町田市中心市街地まちづくり計画の各プロジェクトに取り組みながら、駅周辺の機能更新を見据えたまちづくりを進める。 ・そのため、市、町田商工会議所、中対協、都市再生推進法人(株)町田まちづくり公社や、まちなかの住民・事業者等と中心市街地の将来の姿を描き、共有する意見交換会等を実施する。